カルメル
霊性センターニュース

２０１５年2月

３０６号

目次

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

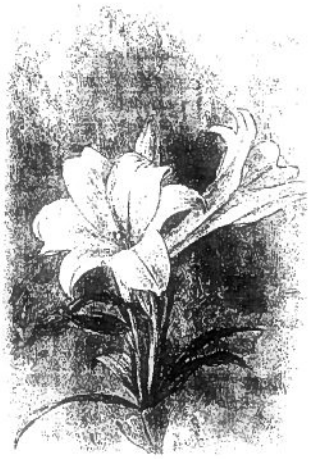
カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・１９

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・・４０

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

心 の 泉



第二巻

第九章　すべての慰めの喪失

３　イエスを愛する人

人は、自分にまったく打ち勝って、自分の愛の的を神に向けるまでには、長く辛い闘いをしなければならない。自分を中心にしている間は、人間からの慰めを求めがちなものである。しかし真実にキリストを愛して、その徳にならおうと努める人は、人間の慰めに頼らず、感覚的な甘美さを望まず、むしろキリストのために、辛い試練と労苦とを耐え忍ぼうとする。

４　喜びと悲しみが交互に

だから、神から霊的な慰めが与えられる時には、感謝をもってそれを受けなさい。しかしそれは、あなたの功徳の報いではなく、ただ神の賜物であると考えなさい。うぬぼれるな、喜び過ぎるな、そして空しく自分に頼り過ぎるな。かえってその恵みのために、ますますへりくだり、おこないにおいてますます警戒し、これまで以上におそれをもちなさい。なぜなら、その時が過ぎ去ると、まもなく誘惑の時が来るからである。

神からの慰めが取り去られる時にも、すぐに落胆してはならない。むしろ謙遜と忍耐とをもって、天の訪れを待たなければならない。実に神は、あなたにそれ以上の慰めをお与えになるからである。それは、神の道の経験者にとっては、新しいことでも珍しいことでもない。大聖人だちと昔の預言者たちの上にも、そういう移り変わりがしばしばあったのである。

聖テレジア生誕500年を祝って

日々神と親しく生きる　－２月－

神の愛のために
元気を出しましょう・・・

愛は　決して手をつかねて
休んでいることはできないのです・・・

愛は空想の産物であってはなりません
実行で証明されなければならないのです

～アビラの聖テレジア～

・・・もう二月？

神の母マリアの祝日ではじまった教会の典礼は主の公現、主の洗礼の主日後は年間となり、二月を迎えます。十一日にはルルドの聖母の祝日（任意）を祝います。寒村ルルドの洞窟に無原罪のマリアがはじめて現れた記念の日です。百年以上こんこんと湧きでるルルドの水は多くの人々の心と体を癒してきました。この日は身近にまた遠いどこかで病んでいる方々の一人ひとりをルルドの聖母のみ手に委ねて祈る世界病者の日となっています。

十八日は灰の水曜日、いよいよ四旬節がはじまります。この日司祭は「回心して福音を信じなさい」、または「あなたはちりであり、ちりに帰っていくのです」と唱えて、一人ひとりの頭か額に灰をかけ回心を促します。復活祭までの四十日間、十字架上の死へ向かって歩まれるイエスの道程をわたしたちも日々の生活の中で共に歩むよう招かれています。**神の愛のために元気を出しましょうとテレジアは呼びかけます。平凡な生活での小さな“実行”を！　愛は空想の産物であってはなりません。実行で証明されなければならないのです、と。　よい四旬節を！**

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す（16）

九里（くのり）　彰

「人を赦すこと」の難しさは、相手が自分や家族の者に対してどのようなことをしたかによって、異なるかもしれない。次の話は、クメール・ルージュのジェノサイドから逃れ、その後、仏教からキリスト教へ改宗したクレール・リというカンボジア女性との質疑応答の記事である。

ご存じのように、ポル・ポトの独裁政権（1975-1979）の時、カンボジアの人口の四分の一が虐殺された。哲学の若い教授だったクレール・リも、近親の者が大勢殺されるのを目撃した。

質問：「カンボジアでのジェノサイドの悲劇の中で、どの時が最も悲劇的な時だったと思いますか？」

もっとも悲劇的な時は、私がすべてを失った時でした。私は水田へと移動させられ、自分の基盤をすべて失いました。友達を失い、すべての基盤が失われた時、私たちは、自分がだれであるかが分からなくなります。アイデンティティーの喪失は、最も困難な喪失です。

質問：「あなたが仏教からキリスト教へ近づく道程は、どのようなものだったのですか？」

最初の段階では、私の悲劇の原因は西洋にあると考え、西洋人の神を、毎日、侮辱し始めました。水田に沈黙が訪れ、初めて私は、自分の苦しみが他の人の苦しみであることを感じました。その日まで、神を呪いました。

第二の段階は、政治的難民としてすでにフランスにいた 1980 年に起きました。福音書を読み始め、イエス・キリストが私のように物乞いであることを発見しました。これは、私に大きな勇気を与えてくれました。

第三の決定的な段階は、聖体の秘跡の発見でした。ホスティアにじっと目を注ぎ、女の弱さの前にひざまずきながら、神の呼びかけを感じました。その時、私は言いました。「はい、私はイエスの弟子になりたい」と。1983 年は、私の洗礼の年となりました。

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（88）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

でも、だれがそう言ったのですか

一度ならず、人々は十字架のヨハネ修士にたずねました。「でも、どうしてそれを知っているのですか。だれがそう言ったのですか。」

被昇天のマルティン修士にとって、状況は非常に痛ましいものでした。ペストやそれに似た病気がバエサで甚大な被害をもたらしていました。1614年4月26日付の手紙でマルティン修士は、こう言っています。

「…たくさんの人が死にました。修道院には16人の病人がいましたが、11人はすでに終油の秘跡を受け、その他の者も重病でした。私たち二人は、修道院に行きました。十字架のヨハネ修父は、すべての病人を見舞っていましたが、悲しみに沈んでいる私を見ると、こう言いました。

「そんなに悲しまないように。ベッドにいる16人の内、だれもこの病気で死にはしません。なぜなら私はそう言われたからです」。私がしつこく彼に、だれがそう言ったのかたずねたので、彼は私に、「そうできる方が」と答えました。実際、彼らの内でそれから6年の間、だれも死にませんでした。

わたしは耳が聞こえない者ではありません

時々、ヨハネ修士は、神の内にひたり、物思いにふけっていました（彼が聖人で、神秘家で、芸術家であったことを忘れないようにしましょう）。彼は、この世の仕事や事柄に関わるために、たいへんな努力をしなければなりませんでした。マルティン修士は、四回以上、「事に対処するように」ある種の伝言を彼に渡しに行きました。一二度何も答えないので、繰り返しました。この証人――マルティンはつけ加えていますが――は、耳が聞こえないのかたずねるのが常だったそうですが、くだんの聖人の方は、こう言うのが常だったそうです。

「黙りなさい。私は耳が聞こえない者ではありません。私は今、自分にはよく分からないことの中にいるのです」。（続く）

「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになった」(ﾏﾙｺ 1,22)。

「イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた」(ﾏﾙｺ 1,21)。言葉と行いで教えること、これは、イエスの使命の重大な部分であり、イエスのみに与えられた特権とさえ言えるものです。そして、福音記者は、イエスが、このとき始められた教える行動を、十字架の死と復活の後、昇天して、今も、わたしたちの間に、続けていることを強調しています。ただし、わたしたちの期待に反して、福音記者は、イエスが教えられた内容には、今日の箇所では触れていません。むしろ、言葉の内容にと言うよりは、語りかけられるイエスその方の態度、心が透けて見える顔つき、動作、振る舞い、言葉の調子に関心を集中しているようです。そして、イエスの言葉についても、最も心打たれる、印象に残る、特徴付けるものは、「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになった」、教えの内容よりは、このイエスの人格の特異性であったのでしょう。「権威ある者としての言葉」とは、どのようなものなのでしょうか。この言葉を聴いて、わたしたちが、想像してしまうものは、強制力を持った言葉のことではないでしょうか。政治力、軍事力、あるいは、経済力、はたまた、暴力を背景にした言葉。有無を言わせず、自分の思いどうりに周りを動かす力を持った言葉です。しかし、イエスの言葉が持つ権威とは、自分の思いどうりに周りを動かす強制力のことではありません。強制とはまったく反対で、自由、より真実な自由に招かれ、生きることが許されていると感じられるところに秘訣があります。「やらされている」とは感じないで、「自分が自分であるために、自分の命を生きるためにはやるべきことだ」と、得心する方向に歩んでゆくことです。権威とは、自分独りでは、いろいろな理由、妨害で、開花させることができない自分の命を、その捕らわれから解放し、殻から引き出し、広やかな新しい空気の中に成長させてくださる、そのような力なのです。

律法学者たちは、モーセの権威、書かれた聖書の言葉の権威、また、聖書の言葉を解釈する学者たちの権威を持ち出して、自分の言葉に重みを付けていました。しかし、イエスは、そうではありません。イエスは、ご自分以外の権威に依存しません。それは、律法学者たちの言葉を無視し、軽視するのではなく、むしろ、完成させる、御父の御旨の中での成就に向けて解放してゆくことなのですが。イエスのこのような自由さ、権威は、どこから来るのでしょうか。それは、十字架に至るまでに誠実な御父との親しさからです。ルカ　渡辺幹夫

年間第5主日（B）

みことばのひびき

（マルコ1：29－39）

本日の福音で、イエスは病気の人たちを癒す神の友として示されています。イエスは、病人のいのちに癒しと健康をもたらすために、ご自分の人間的なエネルギーと霊的なエネルギーを使います。これは全く異なった働きかけです：イエスは仕えるため、与えるため、分かち合うためにそこにおられました。権力や影響力、成功、富を求めるかたではありませんでした。イエスは真に、静かで寛大な「他者のための人」でした。イエスのこの態度はいのちを与え、イエスの働きに意味と価値を与えるものでした。

マルコは簡単な言葉でシモンのしゅうとめの癒しについて続けています。この言葉は福音の中でマルコが、考えや行動を変えたい箇所に、巧みに挿入されています。イエスがたくさんの人たちのあらゆる種類の病気を癒し、悪霊を追い出し、大群衆をひきつける記述です。イエスはこれを自分の魅力を高めるためにおこなったのではありません、助けを必要としている人々に関心を持ったからおこなったのです。

福音書記者は、人生の重要なときや、ご自分の使命の真の姿に対するストレスのときのイエスの祈りについて語っています。このような時、イエスは祈りを通して神との交わりを得ようとされました。一人で静かな場所に行き、活動することから完全に引き下がり、神との静かな時を探します。イエスの弟子たちは、皆がイエスを探している、イエスは人気があり、自分たちの必要を満たすためにいっしょに留まって欲しいと言っていると伝えにやって来ました。イエスがほかのどこか他の町や村へ移りたいと言ったとき、彼らに衝撃を与えたにちがいありません。彼らはイエスを奇跡を起こす人としてだけ見ていて、今イエスは彼が来た真の意味を示します。御父との交わりは、イエスにご自分の使命の意味を探させたでしょう。いったん祈りの中でそれに気づくと、イエスはほかの場所に行ってそこでも説教をしなければならないと弟子たちに告げます。神への愛と従順はもっと大切でした。

本日イエスが私たちに示していることは、意味に満ちた生活です：祈り、黙想、神により近づく生活；言葉と行動で他者と分かち合うための時間がある生活；建設、癒し、和解のための時間がある生活です。イエスには御父のみ旨を見出すために祈りが必要でした。イエスは、私たちの生活の中で神のみ旨を発見し、私たちのためにイエスが選んでくださった道を発見するための祈る方法を示してくださいます。

祈りは全ての人に絶対に必要で、人生の暗闇を克服する助けとなります。この一週間、イエスの生活の中で代表的な日を黙想しましょう、イエスは教師であり、説教者であり、そして祈りの人です。イエスに従う者として、私たちは皆、自分たちの生活の中で、神の王国の宣言の中で、イエスのようになることを目指しましょう。

（*Sr. Paulina*）

「イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ」（ﾏﾙｺ 1,40）。

重い皮膚病の人の癒し、ここにイエスの新しさ、イエスによって開かれる福音の展望の新しいさ、神と人間の、また、人間同士の出会いの新しさが凝縮されていると思えるできごとです。重い皮膚病の人は、汚れた者とされ、人々との交わりから、また、神との交わりからも排除されなければならない、これが旧約の掟でした。「重い皮膚病にかかっている患者は、衣服を裂き、髪をほどき、口ひげを覆い、『わたしは汚れたものです。汚れたものです』と呼ばわらねばならない。・・・その人は一人で宿営の外に住まねばならない」（ﾚﾋﾞ 13,45）。確かに、これは、神の言葉の一部です、しかし、これをどのように解釈し、適応するか、それは、人間のすることでした。人間は、神の思いをすり抜けて、事態を厳しいもの、厳格な隔離の法制度にしたのです、それは、病気の重荷のみではなく、宗教的、社会的重荷を負わせることでした。しかも、それを、神の名のもとに、律法の名のもとに執行されたのです。重い皮膚病の名称のもとに、今日では、特定の身体障害や依存（特にアルコールや薬物依存）の種々の形態や売春、その他のものと同一視される貧困や差別の多くの形態を置くことができます。

さて、今日の福音は、この神の律法を破ることではじめられています。いえ、律法を破ると言うよりは、律法の完成に向けての第一歩を踏み出すことで、と言うべきでしょうが。「重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願う」、この行動は、もう律法の文字に反しています。「わたしは汚れたものです。汚れたものです」と呼ばわり、人々が気がつかないうちにも自分に近づかないように周囲の注意を喚起する、これが律法でした。イエスの反応は、もっと、奇妙です。イエスは、「深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ」た。イエスは受動的にではなく、行動的、能動的に汚れに、神から見捨てられたとみなされていた世界に手を伸ばされる。律法を破る、いえ、すでに触れたように律法を完成する神のみが発意し、実現化できる行為なのです。「手を差し伸べてその人に触れ」、イエスご自身が神不在の場の中に、入ってゆかれる。イエスは言われます、「よろしい。清くなれ」。「よろしい」、これも、直訳すれば、「わたしは望む」とのイエスの主体的、能動的意思の表現です。「たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった」。　　ルカ渡辺幹夫

四旬節第一主日　（マルコ１：12―15）

わたしたちは今四旬節という素晴らしく意味深い、偉大な時期を迎えています；このとき、教会は各自の日々の生活を顧みるよう勧めます。わたしたちに日々注がれている主の愛に対し、自分の至らなかったこと、十分に応えられなかったことをありのまま認め、心から反省し、償いをし、いつも主の望みを行う者となれるよう努めるときです。

今日の神のみことばは、この神の勧めに対しての人間からの二重の応えを求めています。この応えは、灰の水曜日に思い起こすようにと与えられた聖書のことばに要約されています。一つは、わたしたち自身が神の国に向かって心を開き、生活の方向を決定し心の奥底の深いところから変わることです。もう一つは、わたしたちが主のみことばを信じそのみことばに従って生きようとするとき、そのみことばを仰せになったイエスご自身をいただいて生きることです。イエスの内には新しいものが始まっています。神は再びこの世界に神の主権を確実なものにしようとしておられ、罪と悪に対し勝利を得ようとしておられるのです。四旬節はイエスが示された道によって、わたしたちが深く反省し自分自身を変えるときです。また神の御顔を探し求め、わたしたちの信仰を強めるときです。四旬節は聖なるときです；そのとき主は、わたしたちがより完全に自分を顧み、より深い信仰をいただけるよう望まれます。今日のみことばのメッセージは、はっきりこの勝利について語っています。イエスの勝利は四旬節を通しての完全なメッセージです；イエスの十字架上の死によってもたらされた勝利のお蔭で、わたしたちの悪に立ち向かう戦いの勝利者になれるのです。仲間と共に生きる多種多様の共同体の生活の中で、イエスの道を学び、イエスに従って生きる方法を学びます。真理、愛、思いやり、分かち合い、正義と自由に基いた生活を学びます。

今わたしたちは四旬節というとても偉大な時期を迎え、わたしたちの信仰の頂点を祝う準備の６週間を過ごそうとしています；人となられた神の過ぎ越しの神秘、苦しみ、死、そして復活を思い起こし、それらがわたしのためであることを深く心に刻みます。悔い改め、断食と祈りの時です。わたしたち自身を自分の弱さから清め、イエスに従って生きるための新しい決意をして キリストの受難、死、復活を心から祝うことができるよう準備します。各自が償いのための犠牲を具体的に記して行うことは、主の復活という偉大な出来事をお祝いするためにふさわしい準備となるでしょう。四旬節はまたキリスト者としての自分を見つめる時です。ほんの少しの反省でもわたしたちはことばと行いを通して陥る悪への傾きが多々あることに気付きます。わたしたちは前進するよう呼ばれています、そしてわたしたちの従順、神への隷属的な従順、他人への愛と思いやり、祈りと犠牲によって、全てのことを神への深い愛のうちに行うように主は望まれます。この四旬節の間中、自分自身を整えて準備しましょう！心を開いて神のことばを受け入れるように、また清い心をもって主に近づき、わたしたちの心を神の国の中心としてくださるよう願いましょう。

(Sr. Paulina)

デジタルデドックス　　石原淳子

デジタルデドックスなるものを聞いたとき、私は一体どのような顔をしたのでしょうか、どのような感じをもったのでしょうか。

可笑しい、面白い、悲しい、呆れる、焦る、・・・・。　いずれにせよ言い表しようのない複雑なショックであったことは間違いありません。

スマホとかパソコンとかウエアラブルなんとか・・その他聞いたことのない名称のたくさんの機器があり、どれもこれも社会生活を営む上で今では必要不可欠のようです。　通信手段はもとより学童の勉学教育現場、種々創作活動、また防犯の用品として緊急保護の機能として、他にも私の知らないいろいろなことに活用されています。　学校の下校時に校門をくぐるとセンサーが働いて、自動的に保護者へメール連絡が入ると知って心底びっくりしたことがあります。　そういえば現在では当たり前のことであるのですが、教会の連絡事務もメールでいちどきに迅速にできてしまったり、デジタル化は着々と進みます。　そうしたなかで、今も昔も変わらぬお告げの鐘の音が妙に懐かしく、深々とした響きにほっとする安堵感を覚えるのです。

デジタルデドックスとは、これがなくなれば生活が止まってしまうというほどの必要品であるこれら機器を、いわゆる毒抜きするというのです。　すぐには意味が分からなかったのですが、よくきいてみるとデジタル機器一切を身辺から引きはがして、要はデジタル皆無の生活を試みるというものでした。

宿泊施設に手ぶらで泊まり込んで生活をするのです。

チェックインの受付で時計、スマホ、パソコン等々すべて一切を預け、身一つで数日を過ごす、しかも見知らぬ人々と共にということです。　一日の中には身体を動かす作業の時間が組み込まれて汗を流し、独りでいる自由時間が長くあり、三度の食事は宿泊者全員で一つ所で一緒にとるとのこと、デジタル機器には指一本触れることなく誰と何を話すか、独りの長い時間何を思考しなにをするか、すべてはこの身一つにかかってくるというわけです。

数日後、デジタルデドックスの生活を終えてチェックアウトの受付で返却される種々機器には、案の定数十通のメールやら何やらがどっさりと満杯ということでした。　デジタルデドックスの試みは、何を望み何を得るのでしょうか大変に興味があります。

デジタルといわれるものにおよそ縁を結ぶことのできない私がこのようなことを考え思うことには、或る種不遜なこととわかってはいるのですが、デジタルデドックスの話はほんとうに新鮮と云えるほどのおどろきでした。

私はといえば、当誌の原稿も３Ｂの鉛筆を握りしめノートを真っ黒に書きつぶし、朱を入れるどころか青も緑も入れてその上に切ったり貼ったりしてやっと清書に近いものを作り上げ、それを横に置いてパソコンの前に坐り、一字一句を画面に写し取っていくのです。　考えれば滑稽のかぎりですが。　　今どきの作家の方がパソコンで恋愛小説を創る業は全くもう想像すら不可能です。

しかし、そうは云いながらも実をいうと私も時刻を示す横並びの数字を見て、以前していたように文字盤の針の形に変換することをいつのまにかしなくなっていて、やはりデジタルの影響下にはいるのだと知るのです。

私たちは時に個人でまた人々と共に、さまざまな意向をもってこの生活の一切を離れて黙想という時間をもちます。

私もまたずいぶん昔、全く新しいいのちを生きるためにはそうせずには息がつけないというふうに、年に数回修道院の黙想の家にこもる時期が長くありました。

神だけに向かいきって神だけとともにいるために、主を慕い主を愛し私の罪私の無力と出会うために、主の受難に深く触れ主イエズスとの深い蜜月のために。　　そうして再生への歩みを一歩一歩と授かりました。

黙想とデジタルデドックスと共通するものがあるのかどうかわからないのですが、日常の流れに逆らって立ち止まり、何かが絶えないように注意しようとする行為、意志を、私たちは魂の奥底に授かっているのではないかと思うのです。

大切に思うものを目指し追い求めること、ほんとうに生きようとする営みには、どうしてもどこかで赤裸な孤独が必須であるように思っています。

社会の中でいわゆる出来高を積むという方向、快を捨てて、全く逆の方向に向かい深い心の泉へと降り立つために、私たちはひざまずくことの静かさを、或るとき望むのかもしれません。

デジタルデドックスとは、きっとデジタル機器と同じように必要不可欠であり、きっと幸いなひとときと、頷きます。

随想：「囲い」の内と外

建築の原点である住居の歴史は、厳しい自然環境の中で身を守り、生きぬくために、身近な素材を用いて創られたことに始まります。この住居の単位が幾つか組み合わさり集落が生まれました。
そして、様々な立地条件のもとで、人々の生活形態に添って、村・町・都市……と、その生活の場を拡げていったのです。

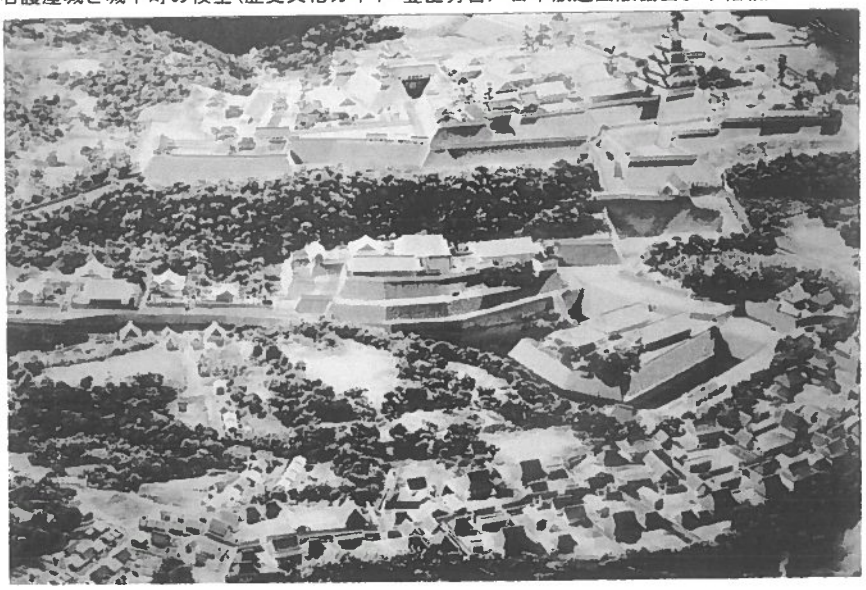
建築は、人々の強い“思い”に支えられて来ました。中世の教会は、建設半ばで石積が何度も崩落を繰り返した記録が残っています。その苦難にも屈せず、天高い空間の創造を追い求めさせたのは、信仰心に根ざした強い信念からだったと思います。そして長い歳月をかけ、試行錯誤を重ねて、その“思い”を実らせてきた歴史があります。個体から集落、そして都市に至る集合体として建築を俯瞰すると、人々が時代風潮や生活の中で抱いた心情を読み取ることが出来ましょう。

ここで建築物を通して、人々の暮らしの中から生まれ、育まれた心情を探ってみたいと思います。集合体としての都市の発生形態から、中国や古代～中世のヨーロッパにみられる「城郭都市」と、日本の「城下町」にみられる人々の暮らしを比較しようと思います。

○ 参考図版-1 ： 「城郭都市」ウイーンの鳥瞰図（レオナルド・ベネーヴォロ著「都市の世界史３」相模書房より転載）

「城郭都市」の特徴：都市の周囲には城郭が築かれ、その“囲い”の内には支配層と一般市民が共存していました。その都市の内と外の世界を仕切り、市民を外敵から守る要は大きな門です。戦いが迫ると“囲い”の外に耕地を持つ農民も城郭内に避難し、門は堅く閉ざされます。そして、共に力を合わせて都市を守ったのです。このように「城郭都市」の暮らしは、王侯貴族たち支配層と市民による運命共同体意識に支えられていたのです。 今でも、ヨーロッパに残る城郭都市を訪れ、門を入ると、広場に面した宮殿・庁舎・教会や、古い街路に沿って連なる石造建築の長い外壁・窓・出入口、そして道を隔てた建物を結びつける渡り廊下など、有機的な往時の人々の生活を偲ぶことが出来ます。

○ 参考図版-2 ： 「城下町」肥前名護屋城と城下町の模型(歴史文化ガイド 豊臣秀吉／日本放送出版協会より転載)



「城下町」の特徴：領主・家臣ら支配層は、堀を巡らした城壁による“囲い”の内に居を構え、一般領民である町民・農民はその“囲い”の外に暮らしていました。ひとたび戦さとなり“城攻め”が近づくと、支配層は城内に立籠り、町民・農民は城外に取り残されたままでした。町家は防御の盾にされ、敵に利用される事を恐れて焼き払われることもあったのです。 彼等は、支配層の都合次第で擁護されることなく見捨てられ、唯唯自衛する他には手立ては無かったと思われます。「城下町」の町民・農民は、「城郭都市」の市民のように、支配層と分け隔てない運命共同体としての、団結心・連帯感を持つこともなく、そびえ立つ城を眺めながら孤立していたに違いありません。

城郭都市型「囲い」／運命共同体意識に支えられた体系。城下町型「囲い」／特権意識に支配された体系。ここでは「囲い」の“内と外”への心情に相違が観られます。 城下町型には、身分制度が苗字帯刀・家構え・家紋・印籠・髪型・装束・言葉使いなどに、色濃く反映されています。そして、世の中が平穏になると、身分の差は和らぎ、それぞれの立場から文化が生まれました。支配層の侍の中にも“武士道”が芽生え、“町人文化”が花咲く時代となったのです。 歳月を経て、身分意識は家柄・学歴・職業・団体・組織・制服・名刺の肩書・高級ブランド品所持などをステータスと考え、人の評価基準として重視する風潮に変化し、根強く生きています…。“囲い”の内側志向とも思える権威主義・官僚主義などの特権意識が助長され、我々の周りにも、自由な生き方を阻害する姿勢が感じられます。人々に備わった本来の人間性は如何に磨くことが出来るのでしょうか。そして又、どの様に受け入れられ、正しく評価され得るものでしょうか。今、我々が直面している大きな問題です。

古い城下町型「囲い」体質の有りや無しやを見極めることこそ、我々が共に生かされ支え合う存在であることを思い起こさせ、道を誤らずに歩むための指標となるのではないでしょうか……。

天野 郁生

いのちの言葉　2月

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

（ローマ 15・7）

使徒パウロはローマを通ってイスパニアへ向かうにあたり、前もってローマの信徒たちに手紙を送りました。彼らの間では人間関係がぎくしゃくし、無理解や競争心も見られたからです。実際、ローマのキリスト者共同体は、社会、文化、宗教的にも大変バラエティに富んでいました。ユダヤ教出身の者もいれば、ヘレニズム文化やローマ古代宗教、哲学諸派の出身者もいましたので、各々が自分なりの考えや倫理観を持っていたのです。「弱い者」と呼ばれる人々は、野菜だけを食べ、特定の日に断食をするなど特別な食事習慣を持ち、「強い者」と呼ばれる人々はそうしたことから自由でしたが、パウロは両者を次のように強く招いています。

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

パウロは「強い者」に向かっては、弱い者の考えを批判せずに受け入れるよう招き、「弱い者」に向かっては、ありのままで神から受け入れられている強い者を裁かないよう説いています。パウロは、意見や習慣の違いがあっても、各々が神への愛ゆえに行動すべきだと確信していました。自分と考えの違う人を裁いてよい理由はなく、むしろ共通善、「互いの向上」、共同体の建設とその一致（ローマ 14・1－23 参照）を目指すべきだからです。

この場合にも、「愛は律法を全うする」（ローマ 13・10）というキリスト者の生き方の大原則を実践することが大切です。ローマのキリスト者たちは「愛にしたがって」（ローマ 14・15）生きていなかったので、共同体の原動力になるはずの兄弟愛の精神に欠けるようになっていました。パウロは互いに受け入れあう模範として、イエスが死の時にご自分の満足を求めず、私たちの弱さを担われた姿（ローマ 15・1－3）を挙げています。イエスは十字架上からすべての人をご自分のもとに引き寄せ、ユダヤ人のヨハネ、ローマ人の百人隊長、マグダラのマリア、共に十字架刑を受けた犯罪人を迎えられました。

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

私たちが属するキリスト者共同体でも、皆が「神に愛され、召されて聖なる者となった」（ローマ 1・7）にもかかわらず、ローマの信徒たちのように、物事の見方や文化の違いから不和や対立の生じることがあるでしょう。自分と同じように考えない人を裁いたり、自分の方が優れていると思ったりする時には、すでに相手の考えを排除することになるので、議論をしても実りは生まれてきません。

パウロが模範として示しているのは、人の個性を取り去る画一化ではなく、異なる人たちの間で築く豊かな交わりです。手紙の中では、一つの体は多くの部分から成り、各部分は異なる働きをすること、カリスマの多様性は共同体を生き生きさせること（ローマ 12・3−13）についても述べられています。「自らの過ちゆえに問題視される人たちでも、欠かすことのできない何らかの貢献をしているのです。これは、宇宙の秩序の中にいて、それぞれ固有の独自性を保った人々の団結です。これが、真に皆を一つにする共通善を追及する社会における人間の総体なのです。」（教皇フランシスコ 使徒的勧告「福音の喜び」二三六項）

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

このいのちの言葉は、相手の中にあるプラスの面を認めるよう招くものです。裁きたくなるような相手であっても、キリストがその人のために命を捧げられたことを思い出しましょう。バラエティに富んでいても一致している共同体を作るため、私たちは、自分を守る姿勢をやめて相手に耳を傾け、変化に対しては柔軟に対応し、敬意と愛をもって違いを受け入れるよう、招かれています

今月のみ言葉は、ドイツ福音派教会が 2015 年の生きる糧、光となるよう、信者のために選んだものです。少なくとも今月、他教会の人々も共にこのみ言葉を分かち合うことは、諸キリスト教会の間で受け入れ合う姿勢の一つのしるしともなるでしょう。

こうして私たちは心を合わせ、声をそろえて（ローマ 15・6）、神をたたえることができるでしょう。キアラ・ルービックも、ジュネーブの改革派教会聖ペトロ大聖堂でこう語りました。「現代は、愛と一致、交わりと連帯を生きるよう、私たち一人ひとりに求めています。そして諸キリスト教会は、数世紀にわたり崩れていた一致を、築き直すよう求められています。それは、世のすべての人と共に普遍的兄弟愛を築くための必要な第一歩です。実際、私たちが一つになっているなら、世は信じるようになるでしょう。」[1]

ファビオ・チャルディ神父

＊2015 年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東　　２月８日（日）13：30～ 神奈川　ｶﾄﾘｯｸ藤沢教会 204 号室

（週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）

中部　　２月８日（日）14：00～ 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎　　２月２２日（日）１４：００～カトリック浦上教会 要理教室

＊詳細は各ﾌｫｺﾗｰﾚ・ｾﾝﾀｰまで。

連絡先：フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp　ホームページ：フォコラーレで検索
http://focolare.world.coocan.jp/

[1]キアラ・ルービック「*Il dialogo è vita*　（対話は生きたもの）」2007 年ローマ P43−44 参照

ヘンリ・ナーウェンの
旅路の糧（184）

山頂体験

ある時、私たちは自分の内と周りとの間に完全な一致を体験します。これは、私たちが山の頂上に立ち、すばらしい眺めに捕えられた時に、起こるかもしれません。あるいは子供の誕生や友人の死に立ち会った時に、起こるかもしれません。あるいは親密な会話や家族との食事を持った時に、起こるかもしれません。あるいは教会で奉仕している時や静かな部屋で祈っている時に起こるかもしれません。けれども、いつどのように起きようとも、私たちは自分にこう言うのです。「これだ…、何もかもすばらしい…、私が望んでいたことがすべてここにある」。

これは、ペテロとヤコブとヨハネがタボル山の頂上で、イエスの顔の様子が変わり、服が白く輝くのを見た体験です。彼らは、その時が永遠に続くことを願いました（ルカ 9・28-36 参照）。これは、満ち足りた時の体験です。これらの時が私たちに与えられたのは、神が遠くに離れ去り、すべてが空しく無駄に思われる時に、それらの時を思い出すためです。これらの体験は、真の恵みの時です。（1219）

他者のために神に出会うこと

満ち足りた時の体験によって、神の現存や実在は確かなものとなり、神がすぐ近くに感じられるので、私たちのようにだれもが神に出会わないことを、ほとんど信じられないほどです。この体験は、私たちの祈りの生活を深め、奉仕の生活を励ますために私たちに与えられているのです。満ち足りた時の中で神を体験したならば、神と共にいたい、体験した神を他者に伝えたいという生涯にわたる欲求を、私たちは持つのです。

ペトロは、イエスの死の何年も後に、タボル山での体験を、彼の証しの源泉として主張しています。彼は言っています。「わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、…聖なる山にイエスといたとき、…キリストの威光を目撃したのです」（2 ペト 1・16-18）。私たちの人生のもっとも内密な時に神に出会うことは、他者のために神に出会うことなのです。（1220）

九里　彰訳

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>

スペインのイエスの聖テレジア生誕５００周年記念文化祭、アビラの祝賀コンサートで開幕

2015年1月17日

文化祭は、イエスの聖テレジア生誕５００周年記念のための全国委員会によって組織され、アビラの祝賀コンサートで開幕されました。

そこでは、カスティリャ・レオン交響楽団は、エルガーのチェロコンチェルトEマイナー作品85番、ブラームス第一交響曲Cマイナー作品68番を演奏しました。

このコンサートには、スペイン政府のソラヤ・サエンス・ デ・サンタマリア副大統領をはじめ、他の政府高官、アビラの県や市の代表者が列席しました。また、聖テレジアの修道院がある１７の市からの代表者も参列しました。

コンサートに先立って、スペイン政府の副大統領は、アビラの男子跣足カルメル修道会の“ラ・サンタ”修道共同体を訪問し、修道院長のダヴィド・ヒメネス神父と、男子跣足カルメル修道会副総長エミリオ・ホセ・マルティネス神父が、イエスの聖テレジア生誕５００年周年のために修復された、聖女の生家に建てられた聖堂を案内しました。

「カルメル」
今日の霊性・冬号
四旬節講話特集号

カルメル 2014 特集号

2014 **冬** No.355 「イエスの聖テレジアのカリスマとその広がり」

● 目次 ●

イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響　渡辺幹夫　2
二人のテレジア ——アビラのテレサとリジューのテレーズ　伊従信子　20
テレジアと出会った十字架のヨハネ　九里彰　33
テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト　松田浩一　46
エディット・シュタインとテレジア ——出会いと霊的絆　須沢かおり　55

○ 目次 ○

《今年の特集　聖テレジアと他の聖人たち》

自分の内に生きることなく生きる ——テレジアの詩とヨハネの詩　九里彰　3
二人の聖テレジア ——神の慈しみをとこしえにうたい、主のまことを世々に告げよう!!　伊従信子　9
エディット・シュタインと聖テレサ ——現代における観想生活の意味　須沢かおり　18
風に吹かれて ——あかり　原造　25
聖テレジアによる祈り　ポーリン・フェルナンデス　28
福者ルイとゼリー ——幼いイエスの聖テレーズの両親　中山貴里　34
西行と芭蕉の霊性 ——伊勢における交歓　田畑邦治　41
「あなたは、とこしえの祭司」 ——ローマでの叙階式　高橋重幸　47
神が慈しまれた道　奥村一郎　53

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

- 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

カルメル会の企画案内

イエスの聖テレジア生誕 500 周年

1．　**カルメル会四旬節講話シリーズ**

テーマ：「現代における預言者 聖テレジア　―聖女のカリスマを次世代に伝える」

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩 7 分）

日時：下記の各日曜日　午後二時半開始　入場無料（講話の後、主日のミサ）

2 月 22 日　松田浩一（カルメル会）
「キリスト者一致に対するテレジア的預言」

3 月 1 日　片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ）
「聖テレジアの霊的母性」

3 月 8 日　九里　彰（カルメル会）
「修道生活の改革者 聖テレジア」

3 月 15 日　中川博道（カルメル会）
「21 世紀のために生まれた聖テレジア」

3 月 22 日　今泉　健（カルメル会）
「テレジアに学ぶ宣教の精神」

2．　**特別講演会**

マクシミリアーノ・エライス神父

（スペインのヴァレンシア管区長から総長顧問となり、現在はアビラの聖テレジアと十字架の聖ヨハネ国際センター（CITeS）の教授。著書多数）

〈一般信徒対象〉

3 月 21 日（土）　午後 2 時～4 時　京都カテドラル

3 月 28 日（土）　午後 2 時～4 時半　上野毛教会聖堂　講演後ミサ

〈奉献生活者対象〉

3 月 23 日（月）　午後 2 時～4 時　二コラ・バレ

上野毛霊性センター　～2016年３月

黙想企画　＊＊　上野毛聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【聖週間】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

２０１５年　４月　２日(木)夕食～　５日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

２０１６年　３月２４日(木)夕食～２７日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１５年１２月２４日(木)～２５日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１０時～１６時

[聖人たちを支えた神のことば]　　福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

２０１５年

４／１７（金）、４／３０（木）、５／１５（金）、５／２８（木）、６／１９（金）、６／２５（木）、７／１０（金）、７／２３（木）、９／３（木）、９／１８（金）、１０／３０（金）、１１／５（木）、１１／２０（金）１２／３（木）、１２／１８（金）

２０１６年

１／１５（金）、１／２８（木）、２／１２（金）、２／２５（木）、３／１１（金）

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

８月　１日（土）１８時～　８月１０日（月）朝　　福田正範神父

８月１２日（水）１８時～　８月２１日（金）朝　　福田正範神父

１０月１３日（火）１８時～１０月２２日（木）朝　　福田正範神父

１２月２７日（日）１８時～２０１６年１月５日（火）朝　　福田正範神父

４．青年黙想会(男女)

４月２４日（金）１６時～２６日（日）１６時

１１月１３日（金）１６時～１５日（日）１６時

５．召命黙想会(男女)

９月２５日（金）１６時～２７日（日）１６時

６．聖週間前の黙想会　　福田正範神父

２０１５年

３月１９日（木）１８時～２２日（日）１６時「十字架の神秘」

２０１６年

３月１８日（金）１８時夕食～２０日（日）１６時

７．木曜黙想会　（毎回木曜日１０時～１６時）昼食つき

お申込みは３か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

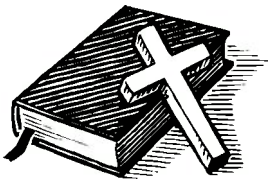
３月　５日　　洗礼と主の晩餐　　福田正範神父

８．特別黙想会　伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

５月２９日(金)２０時～３１日(日)１６時「わたしは神をみたい」

１１月　６日(金)２０時～　８日(日)１６時「いのりの道」



電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Ｅメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25　聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355　／　FAX　03－3704－1789
E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

イエスの聖テレサ（テレジア）1515年3月28日生

生誕500年記念の年

≪2014年10月15日～2015年10月15日≫

主なプログラム≪関西地区≫

2015年2月14日（土）午後　2:30　講話(Fr九里)　＜京都カテドラル＞
テーマ：修道生活の改革者　聖テレジア

2015年　3月21日(土)　午後　2:00　マキシミリアノ神父(テレジア専門家)
講演会＜京都カテドラル＞

2015年3月28日(土)　午前10:00　イエスの聖テレサ生誕500年記念ミサ
＜宇治カルメル修道院聖堂にて＞

2015年　8月10日～8月14日　カルメルファミリー国際交流会
スペイン・アヴィラで開催!!
≪申込み受付中!!≫
テレサの霊的ファミリーとして一般の人も参加可。
詳しくは下記に問い合わせるか、各地区のカルメル在世会に！

詳しい情報・またはアヴィラ交流会参加申し込みは下記のところへ!
611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
担当　松田浩一神父
TEL　0774-32-7456　FAX　0774-32-7457　teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

2015年～2016年　黙　想　会　案　内　　（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】　・１泊２日　　（午後5時～午後4時）

2015年	5月 23日(土)～ 24日(日)	主よ私たちにも祈りを教えてください	中川博道　神父
	9月 5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道　神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道　神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道　神父

【聖書深読黙想会】

・１日　　（午前10時～午後4時）

2015年	2月7日(土)	渡辺幹夫神父	9月12日(土)	渡辺幹夫神父
	4月11日(土)	中川博道神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	5月9日(土)	渡辺幹夫神父	11月14日(土)	中川博道神父
	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	12月12日(土)	渡辺幹夫神父
	7月１１日(土)	中川博道神父		
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

・水曜の黙想　　（午前10時～午後4時）

2015年			
	2月25日(水)	キリストの教え	松田浩一　神父
	4月15日(水)	聖テレジアと共に，復活したイエスを探して	中川博道　神父
	5月13日(水)	ファチマの聖母	松田浩一　神父
	6月 17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫　神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道　神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一　神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫　神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一　神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道　神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫　神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道　神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越	松田浩一　神父

・四旬節の黙想　　（午後5時～午後4時）

2015年	2月28日(土)～3月1日(日)	渡辺幹夫　神父
2016年	3月5日(土)～6日(日)	中川博道　神父

・待降節の黙想　　（午後5時～午後4時）

2015年	12月13日(土)～12月14日(日)	松田浩一　神父

・聖テレーズの黙想　（午後5時～午後4時）

2015年	9月30日（水）～10月1日（木）	伊従信子師

【奉献生活の霊的セミナー】　（午後 1時～午後 2時）　　中川博道神父

2015年	5月3日(日) ～5月6日(水)	松田浩一神父
		渡辺幹夫　神父

カルメル青年の集い　　（午後5時～午後４時）

2015年	4月28日(火)～4月29日(水)	主よ私はあなたのもの、 私のすべきことは何ですか？	松田浩一神父
	11月22日(日)～11月23日(月)		松田浩一神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】　　（午後5時～午前４時）

2015年	2月14日(土)～2月15日(日)	現代日本の社会におけるテレサのカリスマ	松田浩一神父
	10月14(火)～10月15日(水)	イエスのテレサ生誕500年閉会式	松田浩一神父

奉献生活者の黙想　午後5時～午前9時

2015年	7月31日(金)～8月9日(日)	中川博道　神父
	8月21日(金)～8月30日(日)	松田浩一神父
	12月27日(日)～1月5日(火)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

４月2日(木)～４月5日(日)　　{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】　チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１:30

12月24日(木) ～12月25日（金）　　{講話なし、各食事つき}

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

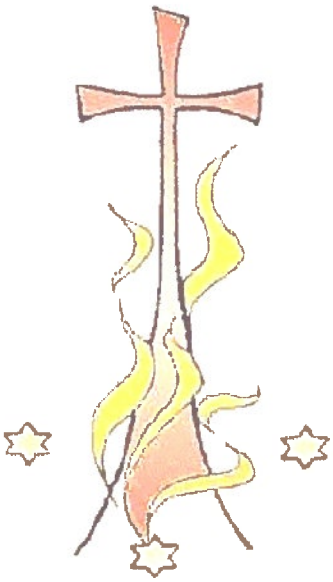
日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　　6 名

【開催日】　2015年　1月30日（金）～31日（土）
2月13日（金）～14日（土）
3月 6日（金）～ 7日（土）
5月 1日（金）～ 2日（土）
5月13日（金）～14日（土）
6月19日（金）～20日（土）
7月24日（金）～25日（土）
9月 4日（金）～ 5日（土）
10月 2日（金）～ 3日（土）
11月 6日（金）～ 7日（土）
12月 4日（金）～ 5日（土）



（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

１４：３０～講話

１５：３０～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日　三馬教会　聖堂

１３：３０～聖書朗読　短い講話

１４：３０～ベネディクション　聖体顕示

１５：３０～聖体拝領

１６：００～サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921－8162

金沢市三馬３丁目324番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076－244－7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月２０,３６０円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１９,１３０円
講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課
電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：九里彰神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

M1 2/7（土）-2/13（金）宝塚売布・女子御受難会
N1 2/23（月）-3/1（日）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/14（土）-3/20（金）東京・小金井・聖霊会
N2 4/30（木）-5/6（水）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 6/12（金）-6/14（日）東京・小金井・聖霊会 ２泊３日
T1 7/20（月）-7/26（日）兵庫西宮・トラピスチヌ
K4 9/19（土）-9/25（金）東京・小金井・聖霊会
N3 10/27（火）-11/2（月）滋賀唐崎・ノートルダム
T2 11/17（火）-11/23（月）兵庫西宮・トラピスチヌ
K5 12/12（土）-12/18（金）東京・小金井・聖霊会

真命山　2015年 － 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前 10 時～午後 3 時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」

1 月　8 日　「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150

2 月 12 日　「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい（マルコ 1,15）詩編　51. 21

3 月 12 日　過越祭のハレルの詩編：113.117.136

4 月　9 日　復活祭の詩編：2.110.118

5 月 14 日　詩編 45.89（ルカ 2,46-55）

6 月 11 日　詩編 145.146.148

7 月　9 日　詩編 126.130

8 月　休み

9 月 10 日　詩編 23

10 月　8 日　詩編 42

11 月 12 日　詩編 137.147.150

12 月 10 日　詩編　来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp
www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１５年～２０１６年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー　以下（予定）の土曜日、9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。
夏学期: 4/11, 4/18, 5/16, 5/23, 5/30, 6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/5, 9/12, 9/19
冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19,
2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6

●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全休。12月30日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全休、12月30日は休み。
・「通う霊操」8月22日(土)－8月30日(日)18時－20時45分上智大学内クルトゥルハイム聖堂
・「黙想会」
2月28日(土)10時－3月1日(日)14時(上石神井)、7月4日(土)10時－5日(日)14時(上石神井)、
11月28日(土)10時－29日(日)14時(上石神井)。1泊2日。7、000円程度。事前申込み要。
[関西]9月26日(土)13時30分－27日(日)15時(宝塚市)。

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
2月7日、3月14日、4月11日、5月16日、6月6日、7月11日、8月8日、9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●坐禅会
・月曜日、木曜日　17時45分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。

●坐禅接心
4月24日(金)20時20分－5月1日(金)8時40分
6月19日(金)20時20分－21日(日)8時30分
8月8日(土)20時20分－15日(土)8時30分
9月19日(土)20時20分－22日(火)8時30分
10月31日(土)20時20分－11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。

[関西]5月9日(土)13時30分－10日(日)15時、7月30日(木)17時45分－8月5日(水)15時。

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
4月18日(土)、6月27日(土)、2016年1月24日(日)。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープンの集い。13時30分から。岐部ホール4階、404。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2015年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

02/06　神の言葉― 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/13　結婚と独身― 愛の道
02/20　信徒・司祭・修道者― 誰もが召されている
02/27　仕事という人間の課題― 社会と教会に寄与して働く
02/28-3/1　●黙想会(上石神井)
03/06　人間の苦悩― 悪とは何のためか
03/13　死― その受け入れと克服
03/20　人生の完成― 神の内に生きる
03/27　聖母マリア― 信じる者の原型
04/05　◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
4/10　信仰の道－人生の意義を問う
4/17　聖書の人間像－人間の現状と使命、
4/24　旧約聖書の神体験－聞くことと見ること
5/1　理性と神認識の道－世界内存在を通して
5/8　創造された世界－人間存在の根拠と自然の意味
5/15　歴史と信仰－神との出会い
5/22　内なる神－その「似姿」としての人間
5/29　新約聖書の神理解－主なる父
6/5　祈りによる神理解－神の偉大さと近さ
6/12　救い主の役割－人類の待望
6/19　神の国－イエスの告げるメッセージ
6/26　イエスの生き方－神に遣わされて人に仕える
7/3　イエスのたとえ話－神の働きを語る
7/4-5　●黙想会(上石神井)
7/10　イエスの人間関係－罪人と弟子と共に
7/17　イエスは誰か－イエスの自己理解
7/24　最後の晩餐－自分を与えるイエス
7/25　◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
7/31　○休み

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2015年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

［教会］
02/03 救いのしるしと実現 ―― 秘跡の意味
02/17　憐れみと愛の祝い ―― 罪のゆるしとミサ
02/28-3/1　●黙想会(上石神井)
03/03「聖徒の交わり」―― 世界の只中のキリスト
03/17　人間と世界の究極の未来 ―― 終末の約束
03/31　信仰者の原型 ―― 聖書に見られるイエスの母
04/05 ◆復活祭ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
［人生の基礎づけ］
4/7　人間の尊厳――自律と自己超越
4/21　人生の目標――神の「似姿」としての真なる人間
5/19　人間以外のものの意義――世界の使用と聖化
6/2　創造・歴史・救い――イエスという中心
［倫理的行為］
6/16　行為の規範――人間らしさと神の呼びかけ
6/30　自己実現――責任と自由
7/4-5　●黙想会（上石神井）
7/7　性格の形成――自己受容と善への憧れ
7/21　人間の弱さ――罪とゆるし
7/25　■感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定）

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです

東京

２月２１日(土)　「四旬節の祈り」
３月２８日(土)　「イエスの祈り」
４月25日(土)　「主は復活された！」

午後2時　～　午後5時３０分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い
講話　　伊従信子

****

参加費　　２００円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

京都

１月31日(土)　13時半～15時　ノートルダム・ド・ヴィ京都
福音書の分かち合い　担当：中山　真里
２月７日（土）14時～16時　河原町カトリック会館８階
『いのりの道を行く』　担当：中山真里
2月7日(土)　１３時半～１５時　京都ＮＤＶ　担当：伊従信子
「貧しい人の母、世界の母、マザー・テレサ」
『テレーズを愛した人々』女子パウロ会出版
2月１０日(火)　１３時半～　　河原町カトリック会館３階
＊『いのりの道をゆく』　担当：伊従信子
＊　祈り：カテドラル地下，都の聖母聖堂にて　３時～3時半

京都お問い合わせ　ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町４
TEL・FAX(075－462－3525)
email　：　ndvmari@hotmail..com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2015年 4月29日（水）～ 5月 7日（木）
② 8月14日（金）～ 8月22日（土）
③ 10月26日（月）～ 11月 3日（火）
④ 12月27日（日）～ 2016年1月 4日（月）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2015年 2月 6日（金）～ 2月8日（日）
② 2月27日（金）～ 3月1日（日）
③ 3月20日（金）～ 3月22日（日）
④ 6月19日（金） ～ 6月21日（日）
⑤ 7月17日（金）～ 7月19日（日）
⑥ 9月18日（金）～ 9月20日（日）
⑦ 11月27日（金）～11月 29日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2015年 5月25日（月）～ 6月2日（火） 澤田豊成 師 （ﾊﾟｳﾛ会）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

主よ、お話しください。僕は聞いております。

共に生きこと、祈ること

2014 年度 第 4 回 召命黙想会

日時： **2 月 14 日(土) 15:00~**

15 日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院

(JR 京都駅から 30 分)

指導： 山内 十束 師（ご受難会）

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000 円

締切： 2015 年 2 月 8 日(日)まで

＜申込み・問い合せ＞

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr.桂川

Tel: 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email: Karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。
URL ： http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付‥開始日の８日前で締切ります

コース	日時＜指導者＞	指導者	開催場所	申込み
フォローアップ	2/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel＆Fax 03-5802-3844
サダナⅡ	3/18(水)17:30- 3/22(日)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山)	若山美知子※
入門Ａ	4/12(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷)	若山美知子※
リピーターの会	4/24(金)17:30- 4/27(月)15:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨセフ山の家 (栃木県那須郡那須町)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日×2=合計4日	5/9(土)9:30- 10(日)17:00 5/16(土)9:30- 5/17(日)17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
入門Ｂ	5/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷)	若山美知子※
サダナⅡ	5/27(水)17:30- 5/31(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649　Fax:098-945-8720 Sr 比嘉	
フォローアップ	6/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel＆Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門Ａ．Ｂ．Ｃ）＝体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす

◆サダナⅡ＝Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される

◆フォローアップ＝サダナⅠを終えた方

◆入門Ｃ＝入門Ａまたは入門Ｂを終えた方

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
　　１２月のみマリア聖堂（ミサ有り）

2月19日（木）『霊魂の城』第六の住居・第八章
4月9日（木）、6月11日（木）

アビラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

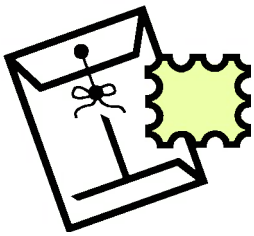
第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

霊性センターニュース
＊年間購読（郵送）のご案内＊



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。

例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》
tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１
Fax: ０３－３７０４－１７８９

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先日、振り込め詐欺の被害者についての番組があった。自責の念から自殺する者まで出ているというのだから、事は深刻である。騙される方が悪いという考えが一般にあり、騙された本人もそう思っているから、人にも家の者にも恥ずかしくて言えない、また簡単に騙された自分をどうしても赦すことができない。悔しくて眠れず、鬱になる人もいると言う。

いずれにせよ、昨年の被害は 500 億円に上る。詐欺を働く人は、良心がない人と言っていいのではないだろうか。「人がどうなろうと関係ない、自分さえよければ良い」という人間のタイプである。このタイプの人は、口が上手で、人当たりも非常によい。見るからに悪党という面構えの人は、残念ながら詐欺師にはなれない。演技力抜群で、人を脅したり、逆に弱々しく振る舞い、涙を流し、同情を買ったりするのは朝飯前。良心がないのだから、平気で嘘をつく、これも嘘とは分からないように嘘をつくことができる。そうでなければ、一人前の詐欺師とは言えない。

だが、誠実そうに振る舞いながら、実はまったく不誠実なこの手の人が増えていくなら、この国は間違いなく中から滅びていくだろう。　(P.九里)

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「３月号」製本日　　２月２４日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171